

「みえを知る旅Ⅵ」

参加者募集!!

榊原のお風呂にゆったりつかって、
三重の歴史を学びませんか。

「日本人の心のふるさと」とも称される伊勢の神宮。都から伊勢の入口に湧く榊原温泉は、古くより伊勢参拝に際し、身を清める“湯ごり”の地としての役割も担ってきました。

このことをもとに令和4年（2022年）から湯元榊原館では、「みえを知る旅」を企画し、三重の歴史・文化等について研究されている方々を講師に迎え、学び場を開催してきています。

新たなシリーズⅥでは、受講者の皆さんとの意見交換会など通じて培ってきたノウハウを活かし、実際に“現地を訪ねる”体験の観点や、直接“講師や受講者と語る場”の設定し、一層の活性化を図ります。

「みえを知る旅」3周年を記念して、次の企画を実施したいと考えています。

「みえを知る旅」3周年企画事業のご紹介

なお、「3周年企画事業」については、別途ご案内のうえ募集をさせていただきます。

○湯元榊原館1泊「MieMu および桑名市博物館企画展見学会と「街道、史跡巡り（桑名編）」の開催。

湯元榊原館のお湯を楽しみながら、MieMu 開設10周年企画展「刀剣 三重の刀とその刀工」（令和6年10月5日～12月1日）に合わせ、今回展示の名刀“村正”を所蔵する桑名市博物館館長のお話を聞き、翌日バスツアー（桑名編）を開催。MieMu の見学（担当学芸員からの解説付き）、桑名市博物館企画展（生誕百年 小林研三）の見学、桑名歴史案内人による 六華苑・七里の渡し他、桑名史跡巡りを実施（10月18日・19日バスツアー）予定。

○講演のテーマ“三重の海と日本人のかかわり”にちなんで、昼食に、2016年に閉店した津の名店「東京大寿司」の創業者で、すし職人の 松田春喜氏により、お弁当とコラボしたお寿司をいただく。（50名限定 10月21日）

○シリーズ第5回「神の都・伊勢の茶の湯」では、希望される方に茶道裏千家 名誉師範 浅沼 宗博先生から「お菓子とお抹茶で一服」（有料）の開催など検討します。

第1回 「三重の海と日本人のかかわり」

講師 鳥羽市立海の博物館館長 平賀 大蔵先生

開催日 令和6年10月21日（月） 10:00～12:00

三重県の南北1000キロにわたる海岸線は、木曾三川などからの栄養豊富な水が灌ぐ伊勢湾、海藻の豊富な岩場が沖合まで伸びる志摩半島、また黒潮のよせる熊野灘の沿岸域に大きく分かれます。この沿岸域には135ほどの漁村があり、地先の海に生育、また回遊してくる多種多様な魚介藻類を捕獲する漁業が古くから行われていました。

平城宮木簡（717～749年）、延喜式（929年）、毛吹草（1645年）、本朝食鑑（1697年）、日本山海名産図会（1799年）、三重県水産図解（1883年）などの資料に記されている魚介藻類について、また漁村の残る大漁の石碑や供養塔の碑文、さらに絵図に描かれた漁具・漁法も含めてお話させていただきます。（伊勢神宮にお供えされる海産物についても紹介）

第2回 「桑名藩と津藩」

講師 桑名市博物館館長 杉本 竜先生

開催日 令和6年11月11日（月） 10:00～12:00

一橋慶喜、会津藩主松平容保と「一会桑」を形成し動乱の京都において一定の存在を示した桑名藩。最後は「朝敵」として薩長と激闘を繰り広げていくこととなります。かたや伊勢における随一の大藩として知られる津藩。巷間ささやかれる「津藩の裏切り」とは実際にはどういう状況の中でなされた決断なのでしょう。本講座では、幕末期における両藩の行動をたどることで、三重県の地域の歴史を学び、興味をもつていただく機会にさせていただければ幸いです。

※裏面に続く

第3回 「18通の手紙にみる、宣長と土清」

講師 本居宣長記念館名誉館長 吉田 悦之先生

開催日 令和6年12月9日(月) 10:00~12:00

『古事記』研究の為には、津の谷川土清をまず倒さねばと挑戦状を送る俊英・宣長。一方、それをさりりとかわす土清には、21歳の年の差だけでない、いかにも「大人の風」が備わっています。このように始まった二人の関係は、やがて江戸の賀茂真淵も巻き込みながら、互いの立ち位置の違いと学識を認め合い、対決から融和へと変化していきます。手紙の中に記録された濃密な時間、その中で、土清は『和訓栞』、宣長は『古事記伝』という、近世学術史上に燦然と輝く著作の執筆は進められていくのです。今回は、12年間の二人の交流を詳しく伝えてくれる18通の手紙を紹介します。そこには、学問の厳しさだけでなく、真の理解者を得た互いの喜びも溢れています。みなさんも、「学ぶ楽しみ」を追体験してみてください。

第4回 「伊賀の藤堂、津の藤堂」

講師 伊賀市教育委員会事務局文化財課歴史資料係 山本 厚先生

開催日 令和7年1月20日(月) 10:00~12:00

藤堂藩領であった伊賀と津の共通項、藩士の人事交流、湯治に榊原温泉を用いる伊賀附藩士などを紹介します。その一方で、東方(幕府対策)を担う津、西(朝廷)の窓口であった伊賀などの役割分担や相違点も指摘し、その結果、伊賀附藩士(「伊州藩」)が主導した幕末の新政府軍への寝返り(「藤堂藩の裏切り」)に帰結していく様相を解説いたします。

第5回 「神の都・伊勢の茶の湯」

講師 皇学館大学現代日本社会学部特別招聘教授 浅沼 博先生
茶道裏千家 名誉師範 浅沼 宗博先生

開催日 令和7年2月10日(月) 10:00~12:00

神の都・伊勢の茶の湯は、宇治・山田の御師が中心となり知的文化的営みの一つとして行われていました。特に元禄時代になり大発展を遂げ、都や村を問わず大流行をしました。当時の中心的な人物が、宗旦四天王の一人といわれた杉木普斎でありました。杉木普斎を筆頭に伊勢神宮の禰宜さんたちが、茶の湯を競って行うような風潮がおこり、最盛期となるのです。

このように、伊勢の茶の湯は神宮の禰宜さんたちから始まり、宝暦の頃、表千家の高弟堀内宗心、文政年間、裏千家精中玄々斎が伊勢の地に来て茶道の興隆を図り、現在に至っております。

神の都・伊勢の茶の湯の変遷について、みなさんと一緒に考えたいと思います。

第6回 「もっと知ろう、橘 南谿！」

講師 三重郷土会常任理事 浅生 悦生先生

開催日 令和7年3月10日(月) 10:00~12:00

江戸時代の後期、久居出身の南谿は京都を中心に活躍した漢方医で近代実証医学の実践者で、多くの医学書を著述しました。天文地理学での先駆者でもあり、貧欲な探求心・旺盛な行動力で命の危険を冒しながらも諸国医術修行を行い『西遊記』・『東遊記』を著しました。当時のベストセラー『北窓瑣談』は興味深い紀行文で自叙伝的記述を含みますが、南谿を知る素晴らしい名文です。もっともっと南谿を知って欲しい！ きっと貴方は虜になるでしょう。

主催 湯元榊原館

連携・協力 道の駅 津かわげ

会場 湯元榊原館(津市榊原町5970番地)
(安全面への配慮から変更となる場合があります)

募集 定員70名(先着順)

受講料 6回一括 **7,500円**(企画調査費等経費を含む)
(当日の日帰り温泉入浴料を含む)

なお、第5回「神の都・伊勢の茶の湯」については、この回だけの特別参加を可とさせていただきます。

申込方法 チラシ等掲載のQRコードから。
または別紙申込書にてFAXにてお申し込みください。
FAX 059-252-0792(湯元榊原館 担当 藤田まで)

締切 **10月11日(金)**

※申込書は、湯元榊原館・道の駅 津かわげ・津市観光協会・三重県観光連盟に置いてあります。

連絡先 湯元榊原館 TEL 059-252-0206(担当 前田・藤田)